

平成19年度 文部科学省 社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム

「自然環境診断マイスター養成」について

理学部では、自然環境の「判別・生物多様性・保全策・防災対策」の能力を養い、自然環境教育・行政・事業に対し具体的な提言のできる「自然環境診断マイスター」を育成するためのプログラムを創設しました。

対象は、環境教育・行政・事業に係る現任教職員、大学又は専門学校を卒業した社会人、大学院生、再チャレンジ者等です。

講義方法は、土・日に集中講義を開講し、基幹実習（地質、植物、動物、大気、湖沼、遺跡調査法を1泊2

日のフィールドワークで実施）、特別演習（グループ学習、講師招聘）、特別講演（一般公開を実施）を行い、各教科で6割以上の評価を得てマイスター養成審査委員会で認定された受講者には、信州大学長名で「自然環境診断マイスター」の資格が授与されます。

開講回数は4回用意され、平成19年度には秋冬コース（募集終了）、平成20年度には春夏コース、冬春コース、平成21年度には夏秋コースの開設を予定しています。

特別講演（一般公開）

11月3日（土）13:30～16:00

場所：信州大学理学部第1講義室

講演者プロフィール

数理が語る自然環境

二宮晏 理学部数理・自然情報科学科教授

理学博士。専門は代数学で、有限群論およびその表現論、環論等について研究しています。

大気保全施策

村田博 長野県環境政策課課長補佐

1983年～ 化学職として長野県に勤務

1990年～1993年 長野県生活環境部公害課においてスパイクタイヤ対策、フロン対策を担当

1998年～2000年 長野県生活環境部廃棄物対策課においてダイオキシン類対策を担当

2006年～ 現職

11月17日（土）13:30～16:00

場所：信州大学理学部第1講義室

講演者プロフィール

化学が測る自然環境

樋上照男 理学部化学科教授

京都大学大学院理学研究科博士課程修了。理学博士。専門は分析化学で、研究テーマはレーザーを用いる新しい電気化学分析法の開発とその環境分析への応用です。趣味は俳句です。最近、岳俳句会に入会して松本の自然を相手に作句に励んでいます。

森の木々の暮らしと多様性

竹中明夫 国立環境研究所生物圏環境研究領域長

理学博士。専門は植物生態学。多くの種類の植物がいっしょに暮らしている仕組みが、いま一番関心がある研究テーマです。フィールドワークと計算機シミュレーションがおもな研究手法。森のなかで一人たたずんでいても、ひたすらプログラムを書いていてもしあわせを感じます。管理職業務と研究と家事とスポーツと読書と畑仕事のバランスに苦慮する今日このごろです。

信州大学への交通

JR松本駅正面口を出て向かい側（右前方）エスパ地下1階の松電バスターミナルから“信州大学経由浅間温泉行”乗車、「信州大学前」下車徒歩1分。